

「“何をして生きるか”を支える

— 作業がつくる健康と作業療法の未来構想 —



講師 横井 賀津志

大阪公立大学 医学部 リハビリテーション学科 教授

講演概要：“That occupation is as necessary to life as food and drink.” William Rush Dunton のこの言葉は、今なお作業療法の本質を突いている。作業 (occupation) は人生に不可欠であり、作業はその人を表現 (醸し出す) する。何をして生きるかは、その人の存在そのものである。作業療法は、作業を通して失われた自己を再構築する実践である。

本講演では、作業が健康・安寧に与える影響について、主観的指標から客観的指標に至る観察研究および介入研究の成果を提示する。さらに、作業を生活の中で再構成し、習慣化することで、介護予防へとつながる実践例を紹介する。そして、「何をして生きるか」を支える作業療法の未来を展望する。

プロフィール：

これまで、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象に、急性期から地域までの臨床実践に従事してきた。和歌山県立医科大学衛生学教室にて疫学を学び、学位を取得。現在は、高齢者の認知機能低下の予防および転倒予防に関する研究に取り組んでいる。専門は地域作業療法学および作業科学。近年は、産学官共創研究にも力を入れている。当該分野における疫学研究および介入研究の成果を、国内外の学術誌に発表している。

教育講演

「認知症のわかりにくさを紐解く -作業療法士の役割と意義-」



講師 田中 寛之

大阪公立大学医学部リハビリテーション学科
作業療法学専攻 准教授

講演概要:

認知症リハビリテーション・ケアの現場で生じる「伝わらない」「意図が掴めない」といった“わかりにくさ”を、認知機能の変化と心理的適応、さらにその時々的心身状態や環境との相互作用から捉え直す機会としたい。陰性・陽性症候の視点を踏まえ、言動の意味を丁寧に解釈し、残存能力を引き出す作業療法士が関わる意義と役割を示す。

プロフィール:

2010年4月より医療法人 晴風園 今井病院、2017年10月 社会医療法人 北斗会 さわ病院、にて身体障害、地域領域・精神障害領域にて臨床・研究に取り組む。

2018年4月より、大阪府立大学地域保健学域リハビリテーション学類 作業療法学専攻に講師として着任し、2023年4月より大阪公立大学医学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻准教授に至る。

主な論文・著書:

著書: 田中寛之(編), evidence based で考える 認知症リハビリテーション 2 BPSD の評価と介入戦略 医学書院(東京)2024. など複数

主たる研究分野:

・認知症・高齢者に対するリハビリテーション、ケア(2020年よりAIを用いた認知症ケアの good practice システムに関する研究に従事)



「リスクマネジメントの評価である TP-KYT の 実践とその活用方法について」

講師 有久 勝彦

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部
作業療法学科 教授

講演概要： 病院や施設での安全対策は義務化されているが、対策の効果検証に使用する評価は存在していない。今回、安全対策の効果検証ツールとして、医療従事者の危険予知能力を定量化することのできる「Time Pressure-Kiken Yochi Test (TP-KYT)」を紹介させていただく。本評価の概要および実施や採点における注意点、評価基準、活用方法までを解説したい。ご活用いただければ幸いです。

プロフィール：

広島県立保健福祉短期大学卒。医師会病院勤務ののち、北九州リハビリテーション学院にて作業療法士養成教育に従事。その傍ら、デイサービス、整形クリニック、障がい者支援施設にも関わる。その後、2013 年より国際医療福祉大学にて助教として勤務し、2022 年より関西福祉科学大学にて准教授となる。2026 年 4 月より森ノ宮医療大学にて教授として勤務。専門分野は身体障害作業療法領域。

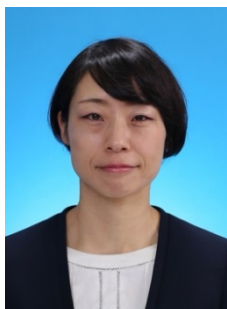
主な資格は、作業療法士(2000 年)、博士(保健学)(2019 年)。

所属団体の役として、日本作業療法士協会資格試験班、生活リスクコミュニケーション学会副代表理事、一般社団法人社会作業療法士協会事務局長、日本 COD-TR 学会理事、日本リハビリテーション工学協会編集委員会編集委員長などを務める。

主な業績は、昨年公表したものとして、論文では「Discrepancy Between Gaze Fixation and Risk Perception in Fall Risk Scenarios Among Healthcare Professionals and Students (Cureus; <https://doi.org/10.7759/cureus.93091>)」、「医療系熟練者と学生におけるリスク発見時の注視点の相違 卒前教育における教示の視点(作業療法・福岡 23)」を、書籍では「OT 臨床ポケット手帳(ヒューマン・プレス社)」を、学会発表では「危険予知能力評価 TP-KYT の再評価版に向けた得点間相関と信頼性指標の統合的検討(第 59 回日本作業療法学会)」を筆頭とし関連研究 6 本を公表した。詳細はリサーチマップ(<https://researchmap.jp/arihisa.risk>)参照。

「関節リウマチの手に有用なエクササイズプログラム

SARAH:ゴール設定と実践について」



講師 中村 めぐみ

大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究科

大阪公立大学医学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 助教

講演概要: SARAH は、関節可動域および筋力強化エクササイズから成るホームエクササイズ・プログラムであり、ランダム化比較試験により長期的な手機能の改善が報告されている(Lamb et al., 2015).

本セミナーでは、実践方法の概要と個別化ゴール設定の重要性を示し、アドヒアランス向上に関するアプローチの全体像について概説する。

プロフィール:

【学歴】

1997年3月 京都大学 医療技術短期大学部 作業療学科 卒業

2008年4月～2010年3月 京都大学大学院 医学研究科人間健康科学系専攻修士課程

(人間健康科学修士)

2010年4月～2013年3月 同博士後期課程(単位取得満期退学)

2021年4月～2025年3月 大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究科 博士後期課程 (保健学博士)

【職歴】

1997年4月～2005年4月 医療法人 徳洲会 宇治徳洲会病院 勤務

2005年5月～2012年3月までは、大学編入、大学院進学のため非常勤職員として整形外科のクリニックや地域包括支援センターで外来、訪問などの作業療法に従事

2012年4月～2017年3月 京都医健専門学校 専任教員

2017年4月～2025年3月 森ノ宮医療大学総合リハビリテーション学部作業療学科 講師

2025年4月～ 大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究科 助教

「トイレ動作をどう診て支援するのか」



講師 東 泰弘

奈良学園大学 保健医療学部 准教授

講演概要: トイレ動作支援に悩んだとき、大切なのは「できない動作」を漠然と見るのではなく、工程ごとに分けて原因を捉えることだと考えています。本講演では、脳卒中患者の事例と実際の動画をもとに、観察の視点、支援の組み立て方、段階付けの工夫などを具体的に共有します。明日からの臨床での支援のヒントになれば幸いです。

プロフィール:

【学歴】

2011年 大阪府立大学 総合リハビリテーション学部卒業

2019年 大阪府立大学大学院 博士(保健学)取得

【職歴】

2011年 有隣会 東大阪病院

2017年 篤友会 関西リハビリテーション病院

2019年 森ノ宮医療大学 保健医療学部 講師

2025年 奈良学園大学 保健医療学部 准教授

主な業績: ・Higashi Y, et al. (2025). Psychometric Properties of the Toileting Behaviour Evaluation (TBE) Using Rasch Analysis. *Cureus*, 17(1), e53094.
・Higashi Y, et al. (2023). Development of toileting behaviour evaluation for Japanese older patients using wheelchairs in a hospital setting: a validation study. *BMC Geriatrics*, 23, 333.

「予後は疾患自体で決まるのか？」

—つながりと役割から精神障害領域の作業療法を考える—



講師 小川 泰弘

森ノ宮医療大学

総合リハビリテーション学部 作業療法学科 准教授

講演概要：統合失調症の予後は、疾患そのものだけで決まるのでしょうか。Murray らは、統合失調症の予後を捉える一つのモデルとして、発達的な脆弱性だけでなく、その後の支援や環境、人との関わりが経過に影響するという視点を示しています。つまり、予後を左右するのは病気そのものだけでなく、その人がどのような役割を持ち、誰とどうつながっていけるかでもある、という視点です。本講演ではこの考え方を手がかりに、精神障害領域において作業療法士が役割やつながりをどう支えうるのかを考えます。

プロフィール：

森ノ宮医療大学作業療法学科 准教授。

認定作業療法士

精神障害領域の作業療法を専門とし、精神科臨床、地域生活支援、就労支援、リハビリ支援に関する教育・研究に取り組んでいる。近年は、精神障害のある人の居場所感や、つながり、ウェルビーイングの関係に関心を持ち、実践と研究の両面から検討を進めている。

主な業績：・早坂友成, 岩根達郎, 森元隆文(編):『精神科リハビリテーション評価法ハンドブック』中外医学社, 2023.〔「20. PANSS」「35. 病識評価尺度(SAI)」分担執筆〕

・Urakawa M, Noguchi T, & Ogawa, Y. (2025). Impact of the “Sense of Ibasho” and Positive Occupation on Subjective Well-Being: Insights from Users of a Psychiatric Day Hospital in Japan. *Occupational Therapy in Mental Health*, 1–14. など

「発達分野の作業療法士が取り組む教育分野との連携」



講師 福西 知史

株式会社 UT ケアシステム UT キッズ北白川

講演概要：2013年に改訂されたインクルーシブ教育システムの推進により、通常の学級担任を含む全ての教員に、多様な教育的ニーズを持つ生徒への合理的配慮の提供が求められている。私が所属するUTケアシステムでは、奈良県において、教育委員会と連携をし、インクルーシブ教育推進事業に関わっている。作業療法士が地域の小学校や中学校に巡回訪問を実施し、多様な学びの場の整備と学校間連携等の推進に関する取り組みの実践を紹介する。

プロフィール：

株式会社 UT ケアシステム リハビリ発達支援ルーム UT キッズ北白川

児童発達支援管理責任者、作業療法士

児童発達支援管理責任者として発達障害児の支援に従事。人ー環境ー作業モデルに基づく多職種連携や教員支援を専門とし、放課後等デイサービスや学校現場との連携を通して、学習・行動面の課題に対する支援を実践している。現在、小中学校の教諭が求める作業療法士の役割と提供すべき支援についての研究に取り組んでいる。

領域別実践セミナー【地域】

「自費リハビリのリアル～現場から見た可能性と課題～」



講師 吉川 浩爾

脳梗塞リハビリ Me:RIZE ぬくもり奈良ステーション
医療法人誠安会 介護老人保健施設 ぬくもり葛城

講演概要: 奈良県香芝市の自費リハビリ施設における実践をもとに、保険外サービスの実情を紹介する。お客様の多様なニーズや介入の工夫、成果と課題、継続支援の在り方を現場視点で共有し、作業療法士が関わる自費領域の可能性と今後の課題について考察する。

プロフィール:

2009年 作業療法士免許取得

社会福祉法人奈良県社会福祉事業団(現 地方独立行政法人 奈良県立病院機構)奈良県総合リハビリテーションセンター入職 回復期リハビリテーションに従事

2021年 ぬくもりグループ入職

ぬくもり葛城にて入所・通所リハビリ、訪問リハビリ、介護予防事業に従事

2023年 ぬくもり葛城リハビリテーション部チーフに就任

2024年 11月 脳梗塞リハビリ Me:RIZE(ミライズ)へ加入

【講演・講師活動】

2023年～2024年 介護職員初任者研修「認知症の理解」

葛城市地域包括支援課委託事業 介護予防普及啓発事業(いきいきヘルスの集い)

2023年～2024年 「介護予防教室～今日からできる認知症予防」

2024年 「介護予防教室～フレイル予防で健康長寿」

2025年 1月 「レクリエーション活動について」

その他葛城市内の通いの場での出前講座多数

「移動を支えることは、豊かな暮らしを支えること

—自動車運転と地域移動支援における作業療法の可能性—



講師 鍵野 将平

森ノ宮医療大学

総合リハビリテーション学部 作業療法学科 講師

講演概要：自動車運転は、単なる移動手段にとどまらず、生活の自立、社会参加、その人らしさを支える重要な作業である。本講演では、脳損傷者の運転再開支援や地域在住高齢者への安全運転延伸講座、運転終活講座を通して、豊かな暮らしを地域で支える作業療法の役割について考える。

プロフィール：

認定作業療法士、運転と地域移動支援実践者(JAOT)、博士(保健学) 森ノ宮医療大学総合リハビリテーション学部作業療法学科講師。

平成24年に大阪府立大学総合リハビリテーション学部作業療法学科を卒業後、社会福祉法人琴の浦リハビリテーションセンターに入職。令和4年より森ノ宮医療大学に着任し、令和8年に大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究科博士後期課程を修了。専門は、自動車運転と地域移動。脳損傷者の運転再開支援や地域在住高齢者に対する安全運転延伸・運転終活への関与を通して、地域移動支援に関する研究・実践に取り組んでいる。和歌山県においてSIG認定「運転すんの会せんの会」を立ち上げ、医療機関、教習所、警察、行政等との多機関連携による運転と移動の支援を推進してきた。現在は和歌山県作業療法士会自動車運転と移動支援推進委員会委員長として、県内における取り組みのさらなる発展を図っている。さらに、日本作業療法士協会運転と地域移動推進班・委員会委員などを務め、和歌山県内外で自動車運転と地域移動支援に関する実践・研究・啓発活動を展開している。

(主な業績)

鍵野将平, 他: 高齢者の移動と暮らしを守る! 安全運転啓発活動の実践と発展—和歌山県における地域連携の取り組み. 作業療法ジャーナル, 2025 その他多数